

～オホーツク管内博物館連絡協議会連絡誌～

はばた

翔けオ博協！

第 3 号

発行年月日 令和 5 年 3 月 31 日

〒 090-0015

発行所 北海道北見市公園町 1 番地
北網圏北見文化センター内
オホーツク管内博物館
連絡協議会事務局
TEL. 0157-23-6742
FAX. 0157-31-8344

令和 4 年度事業

1. 諸会議の開催

(1)令和 4 年度オホーツク管内博物館連絡協議会総会

・ 4 月 22 日(金)

報告事項

- ①令和 3 年度事業報告について
- ②令和 3 年度決算報告について
- ③監査報告について
- ④その他

協議事項

- ①令和 4 年度事業計画（案）について
- ②令和 4 年度予算（案）について
- ③役員改選について

その他

宗谷管内学芸職員連絡協議会との連携
について

(2)令和 4 年度オホーツク管内博物館連絡協議会役員会

・ 4 月 22 日(金)

協議事項等については総会内容と同じ

2. 研修事業

(1)研修会（北見市）

・ 7 月 16 日(土)～ 8 月 28 日(日)

・ 場所：北網圏北見文化センター

・ 内容：美術企画展「ルーヴル美術館の
銅版画展」の見学

(2)研修会（網走市）

・ 7 月 3 日(日)

・ 場所：博物館網走監獄

・ 内容：博物館網走監獄開館 40 周年記念
事業「山下洋輔トーク・コンサート」・
「近代監獄の誕生と建築家
山下啓次郎展」の見学

(3)研修会（北見市）

・ 1 月 22 日(日)

・ 場所：北網圏北見文化センター

・ 内容：講演会「描かれた“北”をめぐる」
：講 師 北海道立近代美術館
学芸員 瀬戸 厚志

・ 1 月 14 日(土)～ 3 月 12 日(日)

・ 内容：美術企画展「描かれた“北”～北海
道立近代美術館コレクションから
～」の見学

3. 広報活動

・ 機関紙「翔けオ博協！」第 3 号の発行

4. その他

(1)会員相互の資料の貸借及び斡旋

(2)講演、研修会、企画展等の後援

～会員の各館事業に対する後援

①紋別市立博物館開館 20 周年記念事業
「懐かしの名寄本線
開通 100 年記念鉄道展」

②紋別市立博物館開館 20 周年記念事業
「竹澤イチローの世界展」

③「北の縄文展 in 釧路・網走」

④その他 2 件

令和 4 年度オホーツク管内博物館連絡協議会総会報告

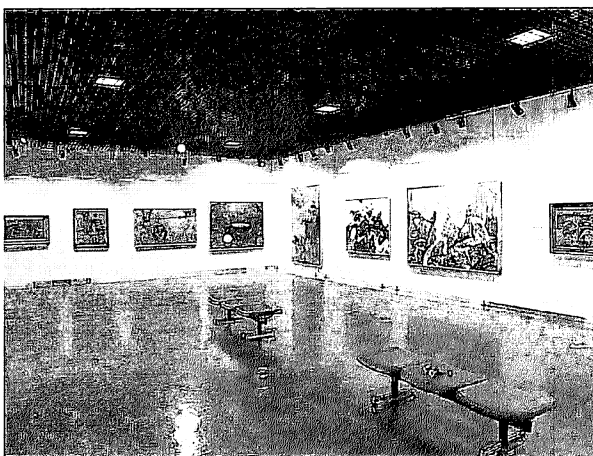
令和 4 年度の定期総会が 4 月 22 日(金)、北見市の北網圏北見文化センターで開催されました。総会では、令和 3 年度の事業報告・決算報告・監査報告などが報告され、また令和 4 年度の事業計画

(案)・予算(案)・役員改選・宗谷管内学芸職員連絡協議会との連携について説明・協議され、出席 9 機関、委任状 9 の合計 18 機関全員により承認されました。また、置戸町郷土資料館が新たに会員になりました。

令和4年度オホーツク管内博物館 連絡協議会研修事業（北見市） 北網圏北見文化センター

令和5年1月14日(土)から3月12日(日)まで、北見市の北網圏北見文化センターにおいて開催された美術企画展「描かれた“北”～北海道立近代美術館コレクションから～」と同展の講演会を令和4年度の当協議会の研修事業としました。

本展覧会は北見市美術展実行委員会と北網圏北見文化センターが主催し、北海道立近代美術館の協力により開催されました。内容は、北海道立近代美術館の所蔵品の中から、“北”をキーワードとして選ばれた作品43点を紹介するもので、北網圏北見文化センターが所蔵する関連作家の作品10点もあわせて展示されました。



美術企画展の様子

北海道の洋画の発展において、宮城県出身の林竹治郎は大きな役割を果たしました。1901年から28年にわたり札幌第一中学校（現・札幌南高校）で美術教育に取り組み、後に北海道を代表する作家となる長谷川昇や中原悌二郎、三岸好太郎らを育てました。

展示された「朝の祈り」は、家庭での礼拝を題材にして1906年に描かれた作品で、第一回文部省美術展に入選しています。1925年（大正14年）には、林竹治郎、本間紹夫らにより北海道美術協会が結成され、同年10月、北海道で初の美術公募展となる「道展」が開催され

ました。本展では本間紹夫が長女の静江をモデルにしてチェロや本棚、お面など、多くの物で満たされた部屋を描いた「室内」が出品されました。その他、1945年に結成された全道美術協会の創設会員である木田金次郎の「青い太陽」や小川原脩の「雪」、国松登の「氷上のひと」「雪野（魚の碑）」といった作品の展示、神田日勝による道外の公募展「独立展」入選作品「一人」などの展示もあり、活発化していった北海道洋画界の様子が伝わってきます。オホーツクゆかりの作家からは、少年時代を過ごしたオホーツク地方の豊かな自然をキャンバスいっぱいに描いた岸本裕躬の作品が紹介されました。

北海道での日本画の本格的な発展は、洋画より少し遅れることとなります。北海道には日本画の伝統や下地がなく、学ぶ環境も十分ではなかったためです。戦後、本間莞彩ら道展日本画部会員が中心となり、北海道日本画協会が創立されるなど、組織的な日本画主体の活動が生まれていきました。日本画からは本間莞彩の代表作「幌都の冬」「夕陽の北海」や片岡球子の「屈斜路湖」「雅楽・八仙」が展示されました。



北海道の洋画、日本画、陶芸

北海道において、オーソドックスな写実表現が広く受け入れられる一方、新しい表現となる抽象表現に挑戦する作家も次々に登場しました。北海道の抽象表現作品からは、難波田龍起が幾何学的な構成により生家を描いた「北国の家」、ドリッピング（絵の具を垂らす）技法を用いた「秋の詩」、小谷博貞がキュビスム的な

造形に深い鎮魂の思いを込めた作品「立棺」などが展示されました。

その他の表現としては版画があります。手描きにはない造形や色、そして複製できる点が版画の大きな特徴です。その味わいと面白さに惹かれ、多数の版画家が北海道で活躍してきました。本展では、北の暮らしや生業を見つめた阿部貞夫の「樹と人」「下曳」、北の多彩な風物を木版画に遺した北岡文雄の「根室風景」などのほか、オホーツクゆかりの作家からは、詩情豊かな木版画で絵本の世界を彩った手島圭三郎、北見を拠点に驚異的な数の版画を遺した景川弘道らの作品が展示されました。



北海道の抽象表現と版画

北海道のデザインにおける重要な作家としては栗谷川健一があげられます。デザイン学校を設立して若手の育成に尽力したほか、今回展示された全国観光ポスターコンクール特選受賞の「夕陽と牧草」や札幌冬季オリンピック招致ポスターの「スキーの源流」などにより、北海道の魅力を多くの人々に紹介しました。

また、写真の分野からは、露口啓二によるアイヌ語由来の地名を持つ場所を時間を空けて撮影した2点組構成のシリーズ『地名』から、「宇登呂」「常呂」が展示されました。

さらに道立近代美術館の特徴的なコレクションでもあるガラス工芸作品から、エミール・ガレ、岩田藤七、扇田克也らの作品が展示されたほか、陶芸作品からは江別市に北斗窯を開いた小森忍、人間国宝の松井康成の作品も展示され

ました。

開催期間中の1月21日(土)には、展示作品の所蔵館である北海道立近代美術館の瀬戸厚志学芸員によるギャラリーツアーが開かれ、展示室内で実際に作品を見ながら解説していただきました。また、翌22日(日)には講座室において瀬戸学芸員による講演会「描かれた“北”をめぐって」が開催されました。



瀬戸学芸員による講演会

講演会ではスライドを使って、展覧会の見どころ、展示作品や作家の特徴、道立近代美術館のコレクションの特色などを詳しく解説していただきました。

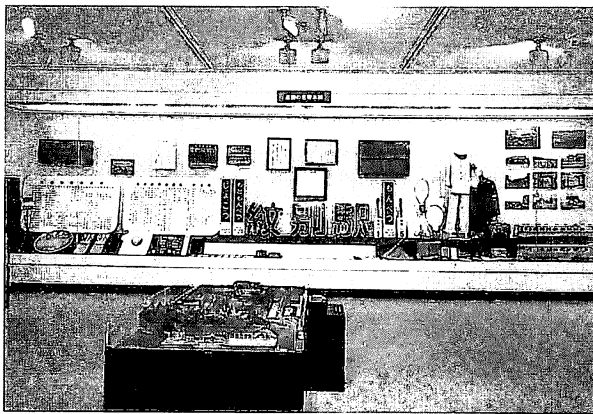
作家たちは、変化していく時代の中で、北の風景をつぶさに観察し、北に育まれた心で、北への思いを自らの個性により表現してきました。ひとくちに“北”といっても、その捉え方と表現は実にさまざまであり、作家自身の背景も、描かれる題材や技法もそれぞれ異なり、会場ではバリエーション豊かな“北”の姿を見ることができました。

今回の美術企画展は、北海道ゆかりの作家による作品や北海道特有の気候風土を題材とした作品など、北のイメージが表現された数多くの作品を一堂に鑑賞できる貴重な機会であり、北海道民の財産ともいえる北海道立近代美術館のコレクションを通して、北海道のイメージを広げ、魅力を再発見する研修会となりました。

紋別市立博物館開館 20 周年 記念事業の開催（紋別市） 紋別市立博物館

紋別市立博物館では開館 20 周年の記念事業として、オホーツク管内博物館連絡協議会の後援により特別展を 2 回開催しました。

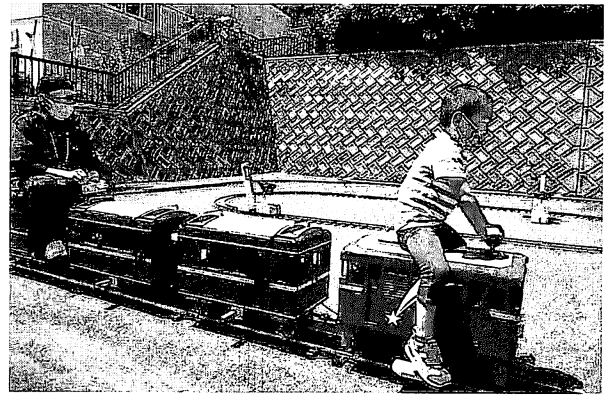
1 つ目の特別展「懐かしの名寄本線 開通 100 年記念鉄道展」は、令和 4 年 7 月 16 日～8 月 28 日に開催しました。国鉄(のちの J R) 名寄本線の開通は大正 10 年 (1921 年)。物流形態や産業構造の変化により平成元年 (1989 年) に廃止となっていますが、30 余年が経ち、名寄本線を知らない住民も増えてきたことから、全線開通 100 年の節目となる本年、改めて名寄本線の歴史を紹介する機会としました。



「鉄道展」の様子

会場には、紋別一札幌間を 5 時間半で結んだ「急行紋別」や名寄本線で活躍した「9600 型蒸気機関車」などの 15 分の 1 車両模型、沿線 40 駅のジオラマや写真のほか、鉄道や駅で実際に使用されていた道具や看板など 200 点以上の資料を展示しました。また、夏休みの子どもたちが楽しめるものとして、Nゲージ (150 分の 1 鉄道模型) を使い列車を走らせることができるジオラマの展示や鉄道員の制服や制帽を着用して記念写真が撮れる顔出しパネルなども設置しました。

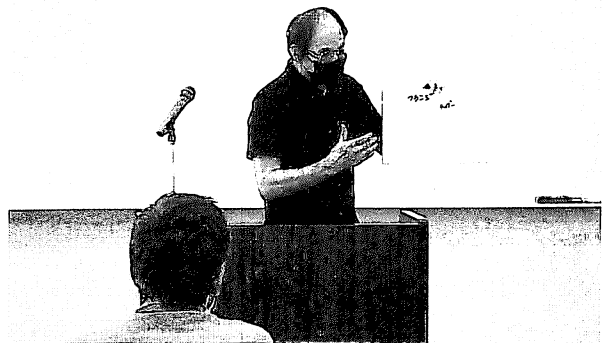
博物館の駐車場にはミニ鉄道を敷設し、寝台特急「北斗星」を模したミニ列車に子どもたち



ミニ列車の乗車体験

を乗せて走らせたり、手漕ぎトロッコの乗車体験も行いました。

特別展の関連イベントでは、元国鉄職員で本展のジオラマや鉄道模型を制作した鉄道模型作家の新木 収氏によるトークイベント「元国鉄マンの鉄道おもしろ話」を 8 月 7 日に実施し、熱心な鉄道ファンに参加いただきました。

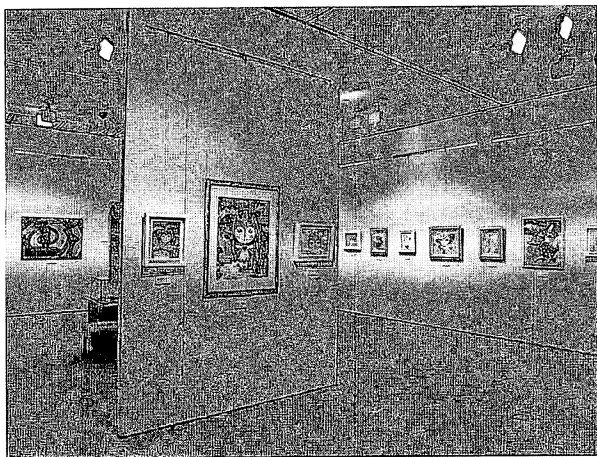


新木 収氏によるトークイベントの様子

本展の開催期間中には、連携する形でオホーツク管内公共図書館協議会遠紋ブロックの 7 市町 8 図書館で鉄道の記憶を辿る資料展「夏休み鉄道展」とスタンプラリーが実施されたほか、紋別市立図書館では名寄本線の記憶をテーマにした市民文集「思い出の名寄本線」が発刊されるなど、地域をあげて鉄道をテーマとした催しが展開されました。

なお、今回の特別展で制作したジオラマ、車両模型のほか、展示した鉄道資料については、特別展終了後に当館展示室に鉄道コーナーを新設し、令和 5 年 2 月 22 日より一般公開、常設展示としています。

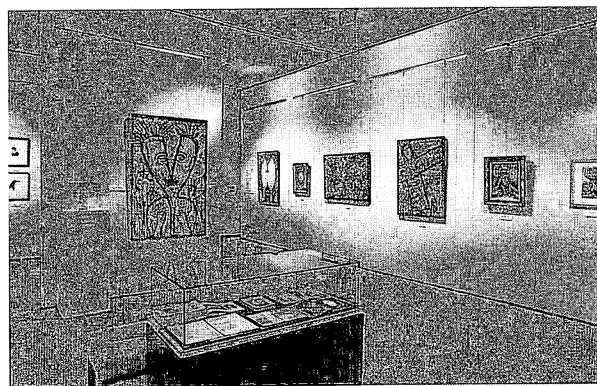
2つ目の特別展「竹澤イチローの世界展」は、10月29日～11月27日に開催しました。竹澤イチロー氏は紋別市出身で、同市にあった道都大学美術学部を卒業、現在は東京を拠点に活動しているアーティストです。2013年、14年にはフランスの歴史ある美術コンクール「サロン・ドートンヌ」に連続入選したほか、パリやニューヨークなど世界のアートフェアへの参加、ルーヴル美術館での作品展示など、国際的に活躍されています。今回、32年ぶりとなる故郷での展覧会では、初期の作品から最新作まで37点を展示しました。



「竹澤イチローの世界展」の様子

竹澤氏の初期の作品は自己の内面を描いた重厚な作風でしたが、近年になると「明るい絵で世の中を明るくしたい」という思いから、ポップでかわいい作風に変化していきました。

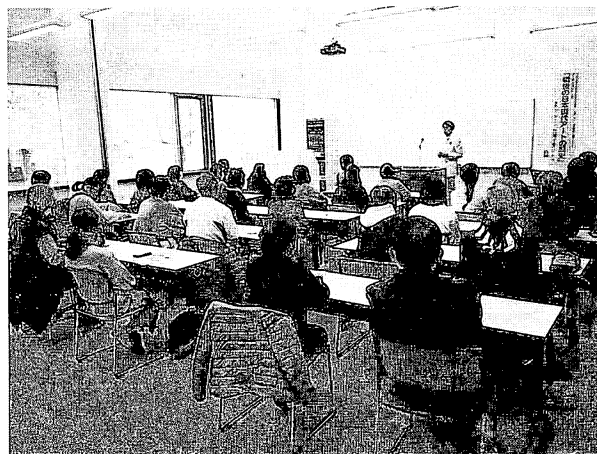
竹澤氏の中で登場するキャラクター「セワッピー」は、北方民族のウィルタが神と



竹澤イチロー氏の初期の作品

して祀った木偶「セワ」と、流水の海のアイドル「クリオネ」がモチーフとなっています。また、近年の作品に多く見られるピンク色は、紋別市の隣町、滝上町の芝ざくらから着想を得たものです。

関連イベントの竹澤氏による講演会「戦後の日本現代アートの歴史」では、地元出身アーティストの凱旋とあって、会場は満員の盛況となりました。



竹澤イチロー氏による講演会の様子

トレードマークのピンクのスーツに身を包んだ竹澤氏からは、戦後、パリで起こった前衛的絵画運動「アンフォルメル」、1954年に吉原治良氏により結成された芸術集団「具体美術協会」、1970年代から80年代に世界の美術界を席卷した表現主義的現代美術「ニューペインティング」など、現在のアートシーンに繋がる歴史について解説していただきました。また、コンテンポラリーアート EXPO Tokyo'88において、竹澤氏の作品「道化師」「案山子」が、審査員を務めたアンフォルメル作家の今井俊満氏と「具体」の主要メンバー元永定正氏から絶賛を受けたことが本格的作家活動へのきっかけとなったエピソードなどを紹介いただきました。

「竹澤イチローの世界展」で展示した作品37点の内、17点を竹澤氏より寄贈いただきましたので、紋別市立博物館の分館まちなか芸術館での常設展示に向け、現在準備を進めているところです。

オホーツク管内博物館連絡協議会会員名簿

(令和5年3月現在)

設置主体区分	No.	市町村名	施設名	備考
町 村	1	美幌町	美幌博物館	
	2	斜里町	斜里町立知床博物館	
	3	清里町	清里町郷土資料館	
	4	訓子府町	くねっぶ歴史館	
	5	遠軽町	遠軽町埋蔵文化財センター 遠軽町郷土館 丸瀬布郷土資料館・丸瀬布昆虫生態館	
	6	湧別町	湧別町ふるさと館 JRY	
	7	佐呂間町	佐呂間町開拓資料館	
	8	置戸町	置戸町郷土資料館	
市	9	北見市	北網圏北見文化センター ピアソン記念館・北見ハッカ記念館 端野町歴史民俗資料館 ところ遺跡の館	
	10	網走市	網走市立郷土博物館 網走市立郷土博物館分館（モヨロ貝塚館）	
	11	網走市	網走市立美術館	
	12	紋別市	紋別市立博物館	
国・道・財団等	13		(公財) 博物館網走監獄	網走市 (設置場所)
	14		(財)北海道立北方民族博物館	網走市 (設置場所)
	15		(財)北海道立オホーツク流水科学センター	紋別市 (設置場所)
	16		東京大学大学院附属常呂資料陳列館	北見市 (設置場所)
	17		(株)木のおもちゃワールド館	遠軽町 (設置場所)
	18		東京農業大学学術情報課程 (オホーツクキャンパス)	網走市 (設置場所)
賛助会員	19		NPO法人 オホーツク文化協会	北見市 (設置場所)
	20		GROUP 斜面	北見市 (設置場所)